2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会		主 査 名：梅宮 典子 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 環境心理生理運営委員会		委員長名：持田 灯 主 査 名：宗方 淳
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度：前身の小委員会の活動を継承し、活動方針を策定。学会内外における研究動向を把握。シンポジウムの開催 (1 回)。 ・2018 年度以降：シンポジウムの開催 (年 1～2 回) 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	秋田 剛 (東京電機大学), 梅宮典子 (大阪市立大学), 合掌 顕 (岐阜大学), 澤島智明 (佐賀大学), 竹原広実 (ノートルダム女子大学), 竹村明久 (摂南大学), 土田義郎 (金沢工業大学), 西名大作 (広島大学), 原 直也 (関西大学), 原田昌幸 (名古屋市立大学), 松原斎樹 (京都府立大学), 光田 恵 (大同大学), 宮本征一 (摂南大学), 山中俊夫 (大阪大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	新領域展望 WG：昨今の技術革新によって発展の目覚ましい簡易測定機器とネットワークの活用などをはじめとして、情報学・医学・農学・土木工学など他分野との連携を行いながら、これからの感覚・知覚心理研究に対して有意義な研究手法の発信など、研究推進に寄与する知見を公開する。		
2019 年度予算	138,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 4 回感覚・知覚心理シンポジウム「福祉環境の設計における感覚・知覚」 参加者数 46 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 当初の活動計画として年 1～2 回のシンポジウムの開催を目標としたのに対して、2019 年度は 1 回のシンポジウムを開催することができた。 2. 当初の活動計画として他分野との連携を目標としたのに対して、2019 年度は福祉分野と連携してシンポジウムを開催することができた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 傘下の WG と活動の一層の連携をはかること。 2. 早めに日程調整を行って、計画的に活動すること。

2019 年度 小委員会活動 自己評価
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	(A) B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当初の活動計画として年に1～2回のシンポジウムの開催を目標としていたのに対し、2019年度は7月にシンポジウム「福祉環境の設計における感覚・知覚」を開催して、目標を達成することができた。</p> <p>次回のシンポジウムのテーマについても、傘下の新領域展望WGと協働してすでに2019年度中に議論を重ねており、学習会も実施するなどして、2020年度前半に開催する予定で準備を進めることができている。</p> <p>また、当初の活動計画として、昨今の技術革新によって発展の目覚ましい簡易測定機器とネットワークの活用などをはじめとして、情報学・医学・農学・土木工学など他分野との連携を行い、これからの感覚・知覚心理研究に対して有意義な研究手法を発信するなど、研究推進に寄与する知見を公開するという目標に対し、2019年度は福祉環境分野の実務家を招いてシンポジウムを開催し、熱、光、音、空気感覚・知覚心理分野における分野横断的な研究の交流を深めるだけでなく、福祉環境分野の設計実務家と相互に理解を深めることもできた。</p> <p>具体的には、アクアリウムのセラピー効果における水槽との距離、ロボットのセラピー効果の可能性、加齢による嗅覚低下のにおいの種類による違い、視覚障害者が敏感なにおいの種類、知的障害者のための空調設計の難しさ、福祉環境の設計における平均的な扱いと特殊な事例への対応の関係等に関して、シンポジウム参加者から質問があった。このように、参加者の興味を福祉分野に広げることができた点も、評価に値すると考えられる。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。